クォータリーレポート

気仙沼・南三陸だより

第１４号　平成２７年９月
発行：気仙沼地方振興事務所

平成 27 年度オープンキャンパスを開催しました

（気仙沼高等技術専門校）

7月 27 日，気仙沼高等技術専門校で，オープンキャンパスを開催しました。

このオープンキャンパスは，同校が実施している3つの職業訓練コース（自動車整備科，オフィスビジネス科，溶接科）の内容を知っていただくとともに，将来，技術を身につけて就職したいと考えている方々に，身近にも技術を学べて資格が取れる学校があることを知っていただくために開催しているものです。

当日は，高校生や一般の方々約 10 名が訪れ，各科の概要説明及び訓練風景の見学と職業訓練を体験しました。

自動車整備科では，エンジンの組立て，大型車及び乗用車のタイヤ脱着などの体験やエアバッグの展開実演を，オフィスビジネス科では，暑中見舞いはがき作成を，溶接科では，電気溶接機などを使った溶接体験を実施しました。

体験後のアンケートでは，71％の方々が入学選考に応募するとの回答であり，体験できたことがとても参考になったとの回答をいただきました。

（アーク溶接の指導を受ける一般見学者）

（大型車のタイヤ脱着作業に挑戦中の高校生）

６月は国が定めた「食育月間」です

（気仙沼保健福祉事務所）

「食」は私たちが生きる上での基本です。近年，ライフスタイルの多様化になどにより，食生活は大きく変化しています。国では6月を「食育月間」，毎月 19 日を「食育の日」とし，食育の取り組みを進めています。

当所では，来所された方に手にとってもらえるようエレベーターホールにて「朝ごはん」・「食事バランスガイド」・「地産地消」に関するパンフレットを設置するとともに，1食あたりの食事の量とバランスを知るためのフードモデルなどを展示しました。

みなさんも自分にあった食事の量とバランスがとれるよう心がけると同時に，地元の食文化に親しむ機会を増やしてみてはいかがでしょうか。

（所内広報用展示コーナー）

（きくの生育状況の確認風景）

南三陸町内の複数のきく生産組織が共同で現地検討を行いました

（本吉農業改良普及センター）

南三陸町のきく生産は，夏咲き作型に夏秋系品種を用い，パイプハウスや露地ほ場で栽培する手法が主流であるため，開花時期が各品種の特性で制限される場合が多く，適期収穫実現のためには，品種選択が重要な課題になります。

近年，産地内で普及している共通品種の開花時期が，需要期に合わない場合もあり，市場評価が伸び悩んでいることから，一部の生産者が新たな品種を試作する等，品種を見直す動きが見られ始めました。

そこで，試作品種の情報を生産者間で共有化することを目的に，普及センターと農協との共催で，共同現地検討会を開催しました。

当日は，9名のきく農家が出席し，ほ場で生育状況を確認しつつ，意見交換を行いました。町内には，きく生産組織が複数ありますが，今回，「栽培品種の検討」を共通テーマとして，組織同士で検討を行うことにより，効果的な情報交換が実現したことから，出席者は，組織間連携の必要性を再確認した様子でした。

今後も，生産農家の方々や関係機関と連携して，南三陸町きく産地に適した品種選定について，検討を重ねる予定です。

ねぎ初夏どり作型の出荷が始まりました

（本吉農業改良普及センター）

南三陸町では，加工業務用ねぎの作付が年々拡大しています。出荷期間を拡大するため試験的に取り組んでいる初夏どり作型の現地検討会を5月に開催したところですが，その後も順調に生育が進み，7月4日に出荷開始となりました。

12 月の定植直後に設置したトンネルの除去直後は，やや軟弱徒長気味の生育で，葉鞘径の不足や過度の曲がりが懸念されましたが，好天が続いたこともあり，L規格（葉鞘径 1.7～2.3cm）中心で曲がりも少ない良品質のねぎが収穫できています。本作型はトンネル設置に手間はかかりますが，病害虫被害の少ない作型であり，出荷時期の拡大にも有効です。

定植時期やトンネルの除去時期など，さらに検討すべき点も明確になりましたので，南三陸に適した栽培方法の確立に向けて，今後も支援を行っていきます。

（十分に生育したねぎ）

大唐桑せん定講習会が開催されました

（本吉農業改良普及センター）

平成 27 年7月8日，気仙沼市唐桑町で大唐桑せん定講習会が開催され，当日は主催者である大唐桑栽培愛好会の会員 10 名が参加しました。

この愛好会は大唐桑の普及促進，栽培技術の向上及び地域特産品開発の研究を行うために大唐桑の栽培者によって平成 17 年に設立されました。

講習では，果実を収穫した後のせん定を実演しました。また，参加者からは今後の生育や病害について熱心に質問をしていました。

なお，この地域では大唐桑の大きい果実と葉を食用とするため栽培しており，6月中旬から7月上旬にかけて収穫した果実を冷凍保存し，随時，桑の実ジャムに加工しています。また，桑の葉は7月中旬から石巻市の製茶工場でお茶に一次加工されて，桑茶や桑の葉パウダーに調製されます。

これらの商品は，数に限りはありますが，JA南三陸気仙沼農産物直売所「菜果好（なかよし）」，唐桑半島ビジターセンターで入手できます。

普及センターでは，今後も大唐桑の栽培技術向上と加工品開発を支援していきます。

（大唐桑のせん定実演風景）

ほ場整備3工区合同現地見学会が開催されました

（本吉農業改良普及センター）

気仙沼市内の津波で被災したほ場整備3工区（最知，大谷，田の沢）で栽培している水稲とねぎの生育状況について，3工区の生産者と関係者が現地見学会を行いました。

隣の工区はどんな生育なのか，どんな管理をしているのか，普段は遠慮して見聞きできていなかった事をざっくばらんに情報交換してもらうために普及センターが企画しました。

水稲ほ場では，雑草対策，いもち病の防除，追肥のタイミングについて，ねぎほ場では，土寄せ作業，病害虫防除について普及センター職員から説明し，生産者から質問をもらいながら情報交換を行いました。

参加者は，普及センターや耕作者からの説明に熱心に耳を傾けており多くの質問も出ていました。

「一度ではなく何度かこのように集まる機会を作ってもらいたい。」という声があり，今後も時期を見ながら企画したいと考えています。

（水稲直播ほ場での生育説明）

（ねぎほ場での生育説明）

「あまころ牡蠣」の試食と出荷が行われました

（水産技術総合センター気仙沼水産試験場）

「あまころ牡蠣」は，東日本大震災で被災した牡蠣養殖業を復興するために開発されている天然由来未産卵一粒牡蠣で，産卵前に栄養をたっぷり蓄えた初夏から夏にかけてが「あまころ牡蠣」のベストシーズンです。

今シーズンは，首都圏オイスターバー関係者を生産地に招いての試食，地元直売所イベントや首都圏オイスターバーでの試食を行っています。世界中の著名なカキを知る首都圏オイスターバー関係者の試食では，「従来のマガキと比較し，余分な臭みがなく味が濃い。さっぱりしているがコクがあり，そのコクは何らかのエグ味によるものでなく中性的なコク。女性好みの食べやすさ。」，「全国のトップクラスのカキと比べて遜色ない。」と高い評価をいただきました。また，地元直売所イベントでは，産地である地元南三陸町をはじめ県内各地からもたくさんのお客様に来場いただき，「甘みが凝縮されていておいしい。」といった感想をいただいています。

8月3日から首都圏オイスターバーでも提供が始まりました。

こうした高い評価を受けて，現在，来年の「あまころ牡蠣」の採苗が始まっていますが，より多くの方に食べていただけるよう，生産者の意欲が高まっています。

（東京のオイスターバーで提供された「あまころ牡蠣」）

（地元直売所イベントでの試食の様子）

南三陸町産，「原木しいたけ（露地栽培）」について，出荷制限が一部解除されました

（気仙沼地方振興事務所　農林振興部）

平成 23 年3月，東電福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の拡散により，平成 24 年4月 11 日付けで南三陸町一円に出荷制限が指示されていましたが，平成 27 年7月 17 日，原子力災害対策本部長（内閣総理大臣）から原子力災害特別措置法に基づき，一部解除されました。

今回解除されたのは，南三陸町内の生産者1名（1ロット（植菌年や栽培管理方法が同一のもの））です。

出荷制限になったのは，露地栽培原木しいたけが，一般食品の基準値（100 ベクレル／kg）を超える放射性セシウムが検出されたためです。

基準値を超えた原因は，しいたけの栽培基盤であるほだ木の汚染と考えられました。そのため①指標値（50 ベクレル／kg）を超過したほだ木を廃棄し，②安全な原木を県外から導入，③県栽培管理マニュアルによりほだ木の汚染を防止するよう生産者へ支援した結果，出荷が可能となりました。

なお，出荷制限解除となった「ロット」について，県では，きのこの出荷前検査や月一の定期検査も行います。

初出荷は，今秋以降の予定です。

是非，安全安心でおいしい，地元の原木しいたけを御賞味願います。

仮伏せの状況（ビニールハウス内）

（地面にビニールシートを敷設，ほだ木を組み周囲をビニールシート等で覆う）

本伏せの状況（林内）
（地面にビニールシートを敷設，周囲を寒冷紗で囲う）

「第１回米づくり推進気仙沼地方本部会議」を開催しました

（気仙沼地方振興事務所　農林振興部）

7月 14 日（火），気仙沼合同庁舎において第1回米づくり推進気仙沼地方本部会議を開催しました。7月6日（月）に県庁で開催された「平成 27 年度第１回水稲生育診断会議」を踏まえて，関係機関と情報共有し，気仙沼・南三陸地域の良質米づくりに必要な栽培管理の徹底を検討するため開催したものです。

本吉農業改良普及センターからは，7月 10 日（金）の水稲生育調査結果も踏まえて水稲の生育状況と今後の栽培管理について説明があり，特に米の品質を左右するいもち病及び斑点米カメムシ類の防除の徹底を関係機関で確認しました。

米づくり推進気仙沼地方本部では，今後も関係機関と連携して良質米生産のための課題解決に取り組んでいきます。

（関係機関により病害虫防除の徹底を確認した）

9名の新たな漁業士が認定されました

（気仙沼地方振興事務所　水産漁港部）

6月 15 日に地域漁業のリーダー「漁業士」の認定式が県庁で行われました。例年，宮城県全体で認定者は数名ですが，今年は気仙沼・南三陸管内だけでも9名もの新たな漁業士が誕生しました。

6月 26 日には，新たに認定された漁業士9名を加えて，宮城県漁業士会北部支部の通常総会が開催されました。総会では岩手県漁業士会大船渡支部との交流会をはじめ，フェイスブックの開設など，今年度の事業計画が話し合われました。総会終了後は，震災前と発生状況が異なる「貝毒」をテーマに研修会を行い，貝類の毒化機構に関する最新の知見や貝毒の監視体制を確認し，生産技術の継続研鑽に努めました。また，その後の意見交換会では営んでいる漁業種類の枠を超えて活発に議論し，漁業士間の親交を深めました。これからの地域漁業を担う新たな漁業士の皆さんの今後更なる活躍が期待されます。

（漁業士の認定式にて）

（貝毒に関する研修会の様子）

かつおの水揚げが好調です

（気仙沼地方振興事務所　水産漁港部）

気仙沼市魚市場では，かつおの水揚げが盛んに行われています。今年のかつおの水揚げは，5月 11 日に始まり，昨年よりも 27 日早く，データに残る昭和 62 年以降，一番早い水揚げとなりました。

8月上旬までの累計は数量で 15,127t，金額で 43 億2千万円と数量，金額とも昨年同期の1．4倍となっており，昨年を大きく上回っております。今年の水揚げは，当初一本釣り船が餌（カタクチイワシ）の供給不足により気仙沼への入港を見合わせていたものの，6月中旬には一本釣り船の入港が相次ぎ，それ以降，好調な水揚げが続いており，生鮮かつおの水揚げ19年連続日本一達成が期待されるところです。また，水揚げ日本一を誇るカツオにスポットを当てた観光ツアーが商品化されたり，気仙沼商工会議所水産流通部会では来年から8月１日を「気仙沼かつおの日」に制定するため，準備委員会が立ち上がるなど生鮮カツオ日本一をPRしており，今以上の消費拡大や販路の拡大が期待されます。これからはたっぷりと脂ののったおいしい戻りかつおが水揚げされます。みなさんもぜひご賞味ください。

（カツオの水揚げの様子）

（水揚げされたカツオ）

田んぼの生き物観察会がありました

（気仙沼地方振興事務所　地方振興部）

7月３日，南三陸町入谷地区で，入谷小学校の3年生を対象にした田んぼの生き物観察会が開催されました。

この観察会は，水田やその周辺で生息している生き物を観察することで，田んぼと生き物との関係を知り，地元でお米が作られている自然環境とその保全の大切さを実感してもらうために南三陸米地産地消推進協議会が開催しています。

参加した児童達は，元気よく水田周辺の水路等を網ですくって，カエルやオタマジャクシ，イモリやドジョウなどを採集した後，講師の先生方から，カエルの見分け方などのレクチャーを受けました。説明を受けた児童からは，「おたまじゃくしは田んぼ以外でどこにいるの？」「ドジョウの卵はどんな形なの？」など質問が次々に寄せられました。

観察会終了後には，南三陸米を使用したおにぎりがふるまわれ，児童達は口々に「美味しい！」と言いながらおにぎりをほおばっていました。観察会への参加は，児童達にとって身近にある自然の大切さや面白さを改めて感じる良い機会となったようです。

（生き物を探す児童たち）

（三塚講師からの説明を熱心に聞く児童たち）

（南三陸米を使用したおにぎり）

第64回気仙沼みなとまつりが開催されました

（気仙沼地方振興事務所　地方振興部）

8月1日と2日の2日間，「第 64 回気仙沼みなとまつり」が開催され，昨年を上回る約7万2千人の人出で賑わいました。

初日は，オープニングセレモニーの後，田中前大通りで「はまらいんや踊り」が行われました。「はまらいんや踊り」では，市内の児童や学生，職場のグループなど 57 団体，約 3,200 人が参加し，各々で趣向を凝らした振付けを披露しました。

二日目は，「街頭パレード」や太鼓団体による「打ちばやし大競演」，ねぶたを積んだ船で太鼓を演奏する「海上うんづら」が行われました。「街頭パレード」は震災の影響で平成24年から26年まで田中前大通りで行われていましたが，今年は震災前の三日町・八日町から南町までのコースに戻りました。

祭りの締めくくりとして，気仙沼湾内の海上から 2,400 発の花火が打ち上げられ，夏の夜空を彩りました。

（はまらいんやの生演奏ステージ）

（湾内に浮かぶ海上うんづら）